

令和元年12月6日（金）に、11回目になる『いっそう元気！東近江』を、学習会を兼ねて開催しました。学習会では、講師に仙台白百合女子大学の志水先生を迎え、第1層協議体としての役割や運営、第2層協議体への関わりについて学びました。

そして、『いっそう元気！東近江』がこれまで取り組んできたことをふりかえりながら、第2層の地域づくりに活かそうなことを話し合いました。



講演「心豊かに暮らせる地域づくりを目指して

～いっそう元気！東近江のこれからを考える～



仙台白百合女子大学
志水 田鶴子 准教授

- ・「協議体」では、東近江市がどんな地域であって欲しいか、私たちが住み続けたいと思える地域の姿を話し合い、共有することから始まる。そのために課題を共有し、暮らし続けるために必要な方法を考えていく。プロジェクトは、そのためのツール。市域や第2層へどう広げていけるかを意識して取り組んでいくことが必要。
- ・地域には住民が暮らしの中で紡いできたつながり、自然な支え合いがある。それを宝物として発見し、地域の力として見出し意味付けすることが大切。
- ・住民の支え合いと専門職によるケアが手を組み、その人らしさを支える。
- ・協議体のメンバーが「やりたい」と思えることを「楽しく」進めていくこと、そのことが自分の幸せにつながり、地域の幸せにつながっていく。

懇談『いっそう元気！東近江』に参加して思うこと

- ・年代も職種も立場も違う良い仲間、頼れる仲間に出会い、より地域のことを知るきっかけになった。
- ・ゼロからのスタートだったからこそ、面白い発想が自然と生まれた。
- ・全体での意見交換を経て、3つのプロジェクトに分かれ、具体的に話を進めていく過程が良かった。みんなで作ってきた実感がある。
- ・人が出会い、話し合うことで新しいつながりが生まれる。
- ・地域包括ケアと言われてもわからなかったが、いっそう元気！東近江に参加してイメージができた。専門職として地域の方々と付き合う方法を知ることができた。
- ・自分の住んでいる地区（第2層）への思いが強くなった。
- ・地域のことを考えている人がこんなにいることを知り、もっとみんなに知ってほしいと思った。ここで得たものを広げていきたい。



■今住んでいる地域に住みたいと思えるかどうか

- ・暮らしていて不便なことはない。でも、暮らしたいと思えるかどうか。住み続けられる身体でいられるかどうか。
- ・何かあれば頼れる人がいるという安心感があると、外から入ってきた人も住みたいと思えるのではないかな。

■地域の中でのつながりが、暮らしを支える

- ・困っていることはあるけど頼れない人がいる。また、困りごとがあること自体、地域の人知らないこともある。
- ・地域の中で一度つながりができると、病気になったとしても、介護が必要になってもつながりの中で気にし合える。



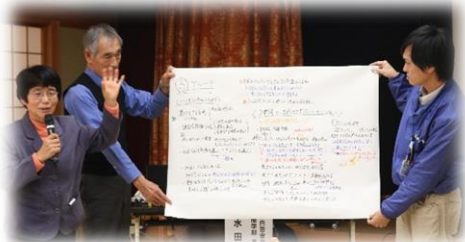
■「いきがい農業」の推進が人や団体のつながりを生む

- ・介護保険サービス利用者の中にも畑をしたいという方が多く、農業は、生活の意欲を引き出せるものだと思う。専門職と農家がつながることができたら良い。
- ・御園地区への「野菜市」などの働きかけを通して…農で楽しめる、仲間が増える、交流の機会が増えるなど、「いきがい農業」を拡げることにつながった。農は様々な団体がつながり協働するきっかけにもなる。今回、御園地区ではそれができた。



■移動の問題あれこれ

- ・車での送迎を近所の方に頼まれている人もいるが、毎回お世話になることを「申し訳ない」と感じている人もいる。
- ・免許を返納した後、タクシーを使って暮らしたら、どのくらい必要か試算しておけると良い。地域差もありそうだが。



■自分の得意が、地域の宝に！

- ・永源寺の『えんがわ喫茶』では、参加者が楽しみにしてくるので、スタッフの得意を活かして、おでんやあられを準備している。みんなの得意が地域の「宝」であり「人財」
- ・地域の人を楽しませることができる人、自分の得意で楽しませてくれる人と、第2層ではつながっていきたい。



■新興住宅や地縁のない地域では…

- ・暮らしが便利になり、お金があれば自分で何でもできる。誰かに頼ろう、つながろうという意識があるのか。
- ・どこの地域でも、お互いに無関心なところがあり、つながるのは煩わしさもある。それでも、地域の中で誰かに助けてもらえることはうれしいこと。
- ・地縁がない地域では、テーマ型で楽しめるものなら、みんなが寄って、つながれるかもしれない。
- ・農地が見つかれば、野菜作りでつながれるかもしれない。

